kosei
生かされ、生きるチカラ。

妻が遺したメッセージ「まず人さま」の心で生きる。

中野教会　佐藤憲司さん

平成28年11月、単身赴任中だった佐藤憲司さんは、携帯電話に息子からの着信が立て続けに10件以上記録されていることに気づく。すぐに電話すると妻の亜希さんが末期の肝臓がんで余命一ヵ月であることを告げられる。病院に駆けつけると、妻は自分のことはそっちのけで夫の体調を気遣い、職場に戻るよう叱責する。入院して3週間が過ぎた頃、容態が急変。いのちの残りを悟ったかのような妻は「この病気が夫ではなくて、私でよかった」とつぶやく。常に自分よりも人のことを優先する妻らしい言葉だった。11月30日、他界。妻との別れは辛かったが、これまでほとんど言葉を交わすことがなかった息子夫婦との関係に変化が生まれた。3人で会話がはじまると、自然と妻の話題になり、一人ひとりが妻と同じ生き方をしていこうと語りあっている。そのとき、亜希さんも笑いながらその場にいるように感じるという。佐藤さんはいま、亡き妻に喜んでもらうために、人さまのために尽くせる自分でありたいと思っている。

明るく、朗らかに

新たにはじまる一年を、みなさんはどのように歩んでいきたいと願っているでしょうか。それぞれに思うところ、期するものがあると思いますが、だれにも共通するのは、一年をとおして明るく、朗らかにすごしたいという願いでしょう。

そうであれば、ぜひ忘れずにいたいことがあります。それは、私たちに生きるエネルギーを与えてくれる太陽のように、まずは自ら明るく朗らかになって、人を和ませ、喜ばせることです。

ただ、「生まれつき陽気な人でない限り、それは難しい」と諦め、ため息をつく人がいそうです。しかし、諦めることはありません。

仏教では、自灯明・法灯明と教えています。自灯明は「自らを灯として生きる」ということですが、それは「何にも左右されない確固たる生き方の芯がある」ということです。そしてその「芯」となるのは、自分を含むすべての人が、かけがえのない命を、いま・ここに・自ら生きているという揺るぎない「信念」で、いま命あることへの「感謝」が、芯を明るく灯しつづけるのに必要な「油」といえるのではないでしょうか。

立正佼成会
www.kosei-kai.or.jp Eメール：info@kosei-kai.or.jp　〒166-8537 東京都杉並区和田2丁目11番1号　TEL.03-5341-1615